

会 議 録

1 会議名

第2回 上越市（仮称）厚生産業会館整備検討委員会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 市内類似施設の稼働状況について（公開）
- (2) 各種団体からの要望内容について（公開）
- (3) 全国類似施設の視察結果について（公開）
- (4) 施設内容について（公開）
- (5) 施設規模について（公開）
- (6) 建設場所について（公開）
- (7) その他（公開）

3 開催日時

平成24年1月25日（水）午前9時00分から

4 開催場所

上越文化会館4階 大会議室

5 傍聴人の数

3人

6 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：赤羽孝之、佐藤由起、田中昭平、甲田佳子、田中弘邦、秋山三枝子、
清水 満、渡邊亮太、熊田僚己

・事務局：小林都市整備部長
都市整備課 奥田課長、阿部副課長、北島係長、松井主任、新保主任
高田地区公民館 大塚館長、佐藤係長

7 発言の内容

(1)開会（奥田課長）

本日の会議につきましては、次第に沿って進めてまいりますので、よろしくお願いたします。なお、本日の委員の出席状況であります。樋口委員さんが急な事情で欠席ということになりました。従いまして委員総数10名のうち9名の委員の皆様が出席されております。従いまして、上越市（仮称）厚生産業会館整備検討委員会設置要綱第6条第2項の

規定により、会議は成立しておりますことをご報告いたします。それでは、赤羽委員長よりご挨拶をお願いいたします。

(2) 委員長挨拶（赤羽委員長）

本日は第2回目ということでございます。先日、インターネットで、この（仮称）厚生産業会館関係を検索しましたが、たくさん載っております。市役所ホームページにも第1回目の会議の議事録が載っておりますし、また、市議会のホームページにも建設常任委員会の記録もありました。また、複数の市議会議員さんのホームページにも載っております。また、上越タウンジャーナル、上越タイムスの上越タウン情報の中にも載っております。

このように、たくさんの市民が注目する施設となっております。より良い施設にするために、21世紀の上越市のひとつの拠点施設になるように、委員の皆様のご知恵を結集していただきたいと思う次第であります。今日は、実質的な議論に入っていくと思いますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

（奥田課長）

ありがとうございました。それではここで資料の確認をさせていただきます。始めに、事前に送付させていただきました【資料-1】市内類似施設の稼働状況について、【資料-2】各種団体からの要望内容について、【資料-3】全国類似施設の視察結果について、【資料-4】施設規模について、【資料-5】建設場所について、それから、本日、受付でお渡しした「席次表」、各委員のお席には、本日、説明する「パワーポイントの資料」と「次回会議の日程調整表」をお配りしております。ご確認をお願いいたします。それから、会議資料を整理するために「青色のファイル」を用意しましたので、資料の整理にご利用下さい。不足等がありましたらお知らせください。それでは、これより議事に入らせていただきますが、上越市（仮称）厚生産業会館整備検討委員会設置要綱第6条により、委員長が議長を務めることとなっておりますので、議事の進行は赤羽委員長をお願いいたします。委員長よろしくをお願いいたします。

(3) 議事（赤羽委員長）

それでは、始めたいと思います。次第に従いまして、議事を進めてまいりたいと思います。第1回の会議のときは、初回の会議であるということもありまして、事務局側の今までの検討結果の説明と候補地の現場視察がメインでありました。しかし、この第2回目以降からは、委員の皆さん方から十分にご検討をお願いしたいと思っておりますので、議事の進行にご協力をお願いいたします。それから、本日の会議の目標を皆さん方と共有しておくことが大事であると思っております。まず、この(仮称)厚生産業会館の一番大事な目的である、機能、用途、この基本コンセプトを確かなものにしたしたいと思います。それが、今日、第2回目の基本的な課題になります。この基本的な施設の目的、用途、機能が曖昧になりますと結論も曖昧になると思うのです。ですから、その基礎的なコンセプトをしっかりと固めたいのであります。そこで、私の方からの提案ですが、先回の会議で事務局より説明がありました、「検討のポイント」を参考にしまして、今回の会議の目標は、次の3点と考えています。1つ目は「ホールと公民館の合築について」、2つ目は「ホールの機能として、どのような機能を想定するのか」、3つ目は「そのホール機能について、座席を収納式とする多目的なホールとするのか」、この3点を本日の会議でまとめたいと思っております。続きまして「ホールの規模」や「建設場所」等については、次回以降の検討委員会に向けて、一定の方向性を見出せればと考えておりますので、本日から議論を深めたいと思います。そして、付属的な機能として「飲食と保育」の部分については、建設場所とも十分な関係があると思っておりますので、今日は議論を深めることはできませんが、時間があれば、現段階で皆様の自由なご意見をお伺いできればと思います。以上ですが、委員の皆様いかがでしょうか。

(各委員)

異議なし

(赤羽委員長)

これまで、上越市内におきましても、今、我々の考えている(仮称)厚生産業会館と類似の施設が幾つかありました。その既存施設の利用状況を客観的に把握することが大事だと思います。そして、それを把握して踏まえた上で、新しい(仮称)厚生産業会館の用途、機能を考えるべきだろうと思います。市民のニーズは実際にあるのかどうなのか、これまで市民のニーズが充足されてきたのかどうなのか。その既存施設が、直江津を中心とした

北部、高田を中心とした南部、東部で地域的な性格をもっているのかどうなのか。そういったことを押さえた上で新しい（仮称）厚生産業会館を考えていきたいと思うわけです。それでは、市内の類似施設の稼働状況について事務局より説明をお願いします。

・議事-1(阿部副課長)

資料-1の市内類似施設の稼働状況について説明いたします。正面スクリーンにて説明していきます。考え方の整理ということで、施設内容、施設規模の検討にあたって、若干説明いたします。まず、今回検討するのは、施設の内容、施設の規模この2点についてです。先ほど委員長さんからもお話があったように、考え方としては、市民のニーズというところが大事だろうということで考えていきます。その中で、現在、市内の類似施設の稼働状況や各種団体からの要望を調査しました。3つ目としては、現在、施設を管理している管理者の方々からの意見をお聞きし、4つ目としては、現在の施設の利用状況や規模をお聞きしました。これは、公民館に関しては現在の施設がありますので、その現在の利用状況や規模。これら4点を中心に考えていきたいということで思っております。

続きまして、市内の類似施設の稼働状況について、類似施設の立地状況を説明します。

1. 上越文化会館について、これは1500席。2. リージョンプラザのコンサートホールが約470席。3. 謙信交流館、これが300席。4. 市民プラザ、これが350席。5. 雁木通りプラザ、150席。6. 中郷区のハートピア中郷が470席。7. 頸城区希望館が470席。

この7つの施設がある中で、今回調査したのが、1.2.3.5.7番です。5つの施設の稼働状況を調査いたしました。その中で、1つ目は駐車場の台数。2つ目は稼働率で、稼働率については、平成22年度の月別や平日、休日を分類して調査をいたしました。3つ目は、利用回数、4つ目は維持管理費、5つ目は施設管理者の意見をヒアリングしております。概ねこの5点について調査をさせていただきました。

続きまして、お配りした資料の内容について説明します。まず、この施設の内容、次に、この施設駐車場の状況が載っております。ここに写真、ここに年間の利用率、これが平均、平日、休日と3つ書かれています。次に利用人数別の利用回数、維持管理費、施設管理者からの意見ということで書かれています。順番に説明いたします。

始めに、駐車台数について説明いたします。縦軸に駐車台数、横軸に施設規模が表わされております。文化会館は370台、リージョンプラザは施設全体で500台ありますが、アリーナやスケートリンク等の複合施設でありますので、施設の床面積で考えた場合、ホールとして使えるのが大体、半分位と考えれば、約250台位になるだろうと思われれます。く

びき希望館が 250 台、雁木通りプラザが 40 台、春日謙信交流館が 50 台となっております。そして、今回検討しているのが施設規模 500 席位で、前回の全国の事例調査からすると、検討台数は 200 台程度が必要だろうと想定しています。この結果から、市内類似施設の稼働状況と比較すると、200 台は少ないだろうと思われます。ですので、駐車場台数に関しては、慎重な検討が必要だろうと考えています。

2 つ目として、稼働率について説明いたします。まず、月別の平均の稼働率がこのグラフになります。平日、休日がこのようになっております。基本的に稼働率ですが、各施設で1日の中で1回でも使ったら、使っていると評価をさせていただいて調査しております。文化会館で分かったことは、休日の稼働率が高いということや、稼働率 100%の月が 3 カ月あります。要は、使いたくても使えない状況があるのではないかと考えられます。リージョンプラザも同じく休日の稼働率が高く、稼働率 100%の月が 3 カ月あります。こちらも、使いたくても使えないことがあるのではないかと考えられます。そして、こちら文化会館と同じことがいえるのではないかと考えられます。次にくびき希望館については、逆に稼働率が低い状況です。尚且つ、休日の稼働率が低くなっており、逆に平日の稼働率が高くなっている結果です。雁木通りプラザについては、こちらは年間を通しての稼働率が高い状態で、特に平日の稼働率が高い傾向です。稼働率 100%の月が 2 カ月あり、使いたくても使えない状況があるのではないかと考えられます。春日謙信交流館については、ここは年間を通して稼働率が高い状況で、稼働率 100%の月が 8 カ月あります。

市内類似施設の稼働率のまとめとしましては、1 つ目は、稼働率が高いということも考えると上越市内においてホールのニーズはあり、逆に現在は十分とはいえないのではないかと考えられます。2 つ目は、平土間の稼働率が高いということです。座席を収納した平らな空間の施設の稼働率が高いということです。雁木通りプラザや春日謙信交流館の稼働率が高いことから、想定されます。逆に、文化会館やリージョンプラザのように、座席の収納が不可能ですので、平らな空間としては使うことができない施設となっております。3 つ目は、中心部におけるニーズが高いということです。リージョンプラザと文化会館の稼働率が高い時でも、くびき希望館では、稼働率が低いということからも想定されるのかなと思います。

続きまして、利用回数についてですが、まず上越文化会館については、100 人以下の利用回数が 1 番高いですが、これは施設管理者に聞いたところ、前日の会場準備などに使われると聞いていますので、この関係から 100 人以下の利用回数が高くなっています。全体

的としては、500人以上の利用が多いということと、用途的には音楽系や講演会系の利用が約半々位となっています。リージョンプラザのコンサートホールについては、どちらかというとも300人以上の利用が多く、400人台の利用が高くなっている状態です。音楽系と講演会系の利用が約半々となっています。くびき希望館は、少人数の利用が多く、470席のところ、200～300席での利用が多い状態となっています。用途は講演会としての利用が多く、音楽系の利用よりも多くなっている状態です。雁木通りプラザについては、100人以下の利用が多く、150人が利用可能となっていますが、100人以下の利用が多くなっている状態です。音楽、演劇系の利用が多くなっている状態です。こちらは席を使用しない平らな空間を使ったカラオケやダンスの練習に利用されていることが多くなっています。春日謙信交流館についても、100人以下の利用がほとんどで、音楽、演劇系の利用が多くなっています。

まとめ1として、文化会館とリージョンプラザのホール系の施設として、席が固定されていて大きな施設ですが、この2施設の利用回数を足してみても分かったことは、500人以下の利用が多いということが分かりました。そして、音楽系と講演会系が約半々、逆に600人から1000人未満の利用が一番少ないということが分かりました。まとめ2として、雁木通りプラザと春日謙信交流館を足してみると、100人以下の利用が多く、音楽、演劇系の利用が多いということになっております。

各施設の維持管理費については、全体的に人件費が割合高いということです。前回、説明した全国の事例から、㎡あたりの1年間の維持管理費が大体5,000円位という全国の事例からの結果で出ておりますが、今回施設を調査したところ3,600円から14,100円位で相当ばらつきがあるということが分かりました。

施設管理者からの意見ですが、主だった意見として説明しますが、施設内容や施設規模と、施設の構造や機能といったところの意見として、施設内容や施設規模についてですが、文化会館では1500人以下の利用があったときなどに、間仕切りなどできれば良いという意見が出ています。リージョンプラザとしては、利用者からの声として700～800人規模のホールがほしいという意見が出されています。また、100人規模の会議室がほしいとの意見もありました。この施設は、利用のほとんどが音楽系の利用です。注目される場所として、9月から11月は、文化祭シーズン等で利用申し込み件数が多く抽選になるということです。抽選になるとなかなか予約がとれない状況であるとのこと。くびき希望館は、全体的に稼働率が低く、会議の利用が多い状態です。雁木通りプラザについてですが、平

土間での利用が多い状態です。椅子を出さず平らな空間の利用が主であり、また、徒歩での来館が多く少人数での利用が多い状態です。特に社交ダンス、演劇団体の利用が多い状況です。春日謙信交流館ですが、平土間での利用が多く、ホール規模に比べて少人数での利用が目立ちます。目的としては、社交ダンスや演劇の団体の方々の利用が多い状態です。

続きまして施設の構造、機能について、文化会館からは先ほど説明したように間仕切りができれば良いとの意見があり、それが可能であれば、なお効率的であるとも言っておられます。利用人数との関係もありますが、1500人規模の施設ではありますが、間仕切りができればそれ以下での利用も可能であり、暖房効果も含めた中で間仕切りがあれば良いという意見がありました。リージョンプラザのコンサートホールからは、利用者の声として、楽屋裏にエレベーターがほしいということ、通路が狭いということ、楽器演奏をする方々からは、器材を入れるところがないという意見が出ております。くびき希望館については、椅子が小さいということが言われています。ここは500席弱で収納式を使っており、構造的な関係もありますが、椅子が小さいという意見があります。椅子が揺れること、音楽を聴いている最中に椅子が揺れるということも言われております。ステージや袖が狭いなどの意見もあります。雁木通りプラザについては、音響設備が整っていないので、もう少し設備を充実してほしいという意見が出ております。ここは舞台がないので発表会ができないという意見も出ております。春日謙信交流館ですが、大きな集会室を3分割することができますが、可動式の壁が歪んでしまうといことから、仕切っても音が漏れてしまい、集会室でカラオケなどやっていると、隣接する部屋に音が漏れるためその部屋もなかなか使えないという状況があるということです。また、土足厳禁のため不便で使いにくく、土足箱も少ないため、足りない場合は、ホール前に新聞紙などを広げて靴置き場として使うことがあるとのこと。

若干、説明を追加しますが、座席数約500席と座席を収納した場合の床面積との関係を説明いたします。市内の類似施設を調べた結果から、客席と舞台を足した面積と客席のみの面積ということで説明します。調べてみると、1席当たり客席としてはどの位の面積が必要になってくるかということ、大体0.7から0.9㎡程度となっています。客席と舞台を足すと、大体0.9から1.3㎡位となっています。平らな面積で500席の場合、500席のホールを作るということは、席を全部収納して340～440㎡、舞台を足した床面積では450～640㎡程となっています。つまり500席のイメージとしては、舞台が110～200㎡、客席が340～440㎡程度で、舞台の間口が15mで奥行きが13m、客席が29mのイメージになります。

ちなみに旧厚生南会館の平らな部分の面積ですが、ステージを抜いた面積で約 700 m²になります。それと比較すると相当小さい状況です。私の方からは以上です。

続いて、現在使っている公民館の現在の稼働状況、利用状況について説明したいと思います。

(公民館 大塚館長)

私は公民館長の^{大塚}と申します。よろしく申し上げます。それでは高田地区公民館と女性サポートセンターの現状と課題について説明させていただきます。スクリーンをご覧ください。

初めに高田地区公民館の概要であります。立地場所は皆様ご案内の高田の市街地の大手町でございます。建物は昭和 34 年建築の旧城南中学校を昭和 56 年に用途変更をいたしまして公民館として使用しております。今年度で築 51 年目という事でございます。施設は鉄筋コンクリートの 3 階建てで、延べ面積は 1719.52 m²、その内の 1、2 階部分を公民館、集会施設として使用している状況です。3 階部分は文書とか備品等の保管スペースとして使用しております。各階の間取りの説明でございますが、平面図を用意してございます。3 階部分は、今ほどお話しさせていただきましたとおり物置として利用しております。2 階部分は、第 2 から第 6 研修室の 5 つの部屋がございます。主な利用、活動内容は会議、合唱、社交ダンス、謡曲等でございます。部屋の大きさは、第 2 から第 5 研修室まで同じ大きさを 63 m²あり、畳に換算いたしますと 38 畳の大きさでございます。第 6 研修室は 88 m²、畳に換算しますと約 53 畳という大きさでございます。次に 1 階部分でございますが、工作室は 31.5 m²、ここでは焼き物、陶芸等で使用されています。第 1 研修室は和室でございます。約 30 畳の大きさでございます、書道、着付け、合唱等のご利用をいただいております。創作室は 88 m²でございますが、絵画、盆栽、木彫り、生け花等のご利用いただいております。高田公民館の写真でございますが、1 枚目は玄関でございます。ご覧になってお分かりのとおり、狭くて分かりにくいのですが、入ってすぐに廊下ということでエントランスホールといえますか、玄関ホールがない状態でございます。2 枚目は廊下の写真でございますが、ちょっと分かりにくいのですが、壁にクラック、ひび割れが入っている状況を撮影させていただいてございます。3 枚目は研修室の写真でございます。手摺の下のところが黒ずんでございますがクラック、ひび割れがございます。かなりの範囲でひび割れが発生している状況でございます。4 枚目は創作室の写真でございます、これも少し分かり

にくいのですが、下の方の蛍光灯のちょっと上の方に黒ずんだ状況がございますが、雨漏りの跡でございます。5枚目の写真は工作室の写真でございます。部屋の状況であります。奥の方にありますのが焼き物をする窯でございます。次に6枚目ですが階段の写真でございますが、ちょっと分かりにくいのですが踊り場と踏み座が沈んで波を打っている状況でございます。7枚目は湯沸室とトイレの写真でございます。特にトイレをご覧いただきたいのですが、大変狭く用を足している人のすぐ後ろを通らなければ次の方がご利用できない形でトイレ自体も大変狭い状況の写真でございます。

最後になりますが、駐車場の写真でございます。駐車場の老朽化が進んでおりまして、路面が亀の子状態になっている状況でございます。以上、施設の現状を説明いたしました。次に今ほどの状況を踏まえまして、主な課題でございます。1つ目は耐震の関係でございます。平成19年度に耐震診断を実施してございます。当然、結果は耐震が必要ということでございまして、内容等につきましては省略いたしますが、概算で設計と工事費を合わせて約7,250万円程の事業費が必要という結果になってございます。次にエレベーター等が無いということでバリアフリーに対応できない施設ということでございまして、先ほどお話ししましたが玄関は入ってすぐ廊下ということで、ロビー等のオープンスペースがないため、来館者同士が気軽に集える場所が無いということでございます。

次に駐車スペースが狭いということで約40台用意してございますが、夏場は自転車、徒歩での来館者がおられますので、なんとか40台でまかなっておりますが、特に冬場は除雪した雪が駐車したスペースを狭めるため、排雪等を行わないと所定の駐車スペースが確保できないという状況でございます。それと老朽化による大規模修繕が必要ということでございますが、築51年経過してございますので、大規模修繕が必要となります。過去には屋根の防水工事、外壁も大規模修繕を行っております。細かな修繕については、建物が大変古くなっていますので、設備関係の補修も余儀なくされている状況でございます。

次に利用人数、利用件数でございます。まず利用人数ですが、平成18年度が15,748人、19年度が20,650人、20年度が19,017人、21年度が16,234人、22年度が14,875人ということで推移しております。グラフをご覧ください。平成19年度から減少傾向になっているわけですが、平成18年度から19年度にかけて増えていることについては、平成18年度末に厚生南会館、寺町の高陽会館が廃止となりまして、その代替施設として利用いただいて増えたわけでございます。平成21年度からの減少傾向については、福祉交流プラザや春日謙信交流館新設により、そちらの方に流れたことが考えられます。次に、利用件数でご

ございますが、平成 18 年度が 3,695 件、19 年度が 3,994 件、20 年度が 3,697 件、21 年度が 3,416 件、22 年度が 3,284 件ということで、こちらも先ほど説明しました利用人数と同傾向を示しておりまして、利用人数と利用件数は同じような傾向にあるということをお願いいたします。

次に、女性サポートセンターについてですが、この場所は、みなさんもお存じのように高田公民館の隣でございまして、廊下でつながっており一体的に利用しております。建設は昭和 55 年、供用開始は 56 年度からです。3 階の軽運動室ですが、一番利用が多い部屋です。2 階は、第 1. 2. 3. 4. 5 の部屋となっており、第 4 と 5 は畳の部屋となっております。1 階は、調理実習室ということで、調理台があり料理教室等として利用いただいております。

サポートセンターについての主な課題ですが、こちらも高田地区公民館と同じく耐震が必要な建物となっております、3 階建てですが、エレベーターも無い、また駐車場も狭くサポートセンターとしては、約 20 台位しか使えない状態です。老朽化による大規模修繕が必要であり、この場合は、高田地区公民館よりも年数が若い建物でございまして、老朽化というよりも経年変化、約 30 年経過しておりますので、経年変化が進んでおり、大規模修繕或いは日々の修繕が必要になってきている状況でございます。以上簡単ではございますが、高田地区公民館と女性サポートセンターの現状と課題についてご説明いたしましたのでよろしくをお願いいたします。

(赤羽委員長)

市内類似施設の稼働状況について説明していただきました。ただいまの説明につきまして、ご質問やご意見等がありましたらお願いします。

(清水委員)

各代表的な施設の維持管理費について、単独決算になっているか説明をお願いいたします。年間維持費や管理費も掛かっていると思われませんが、黒字なのか赤字なのかが知りたいです。新しく（仮称）厚生産業会館を作るとなると、施設費も含めて維持管理費のメンテナンスも長期的にみた場合、その部分だけ切り離して考えるのは難しいとは思いますが、説明をお願いします。

(阿部副課長)

ご指摘の通り維持管理費については、支出ベースで計算しております。各施設の稼働率が高くなってくれば維持管理費の電気代など含めて高くなってくる状態です。施設が使われていれば当然、収入がある訳ですが、今回は収入ベースでの調査はしておりませんでしたので、今後の参考としていきたいと思えます。

例えば、リージョンプラザに関しては、指定管理者制度になっている訳ですが、私の知っている限りでは、どの施設も黒字にはなっていないことが想定されます。以上です。

(清水委員)

年間で、どの程度の赤字がでるのか、概略でも教えていただきたいと思えます。

(阿部副課長)

次回までに調査させていただきたいと思えます。

(清水委員)

分かりました。次回説明をお願いします。

(田中昭平委員)

先ほど委員長の挨拶の中にありましたが、目的を明確にしてやりましょうとありましたが、(仮称)厚生産業会館と公民館との関係ですが、名称や名前やあり方はどうなるのか、その辺の目的を明らかにしてはどうですか。事務局からの説明をお願いします。

(奥田課長)

今、仮称としておりますが、ホール機能と公民館機能を合築した場合、名前はどうかということ、今の段階では、まだ正式に決めておりません。考え方としては、ホールの部分に厚生産業会館と付けて、公民館という部分を、また別に表示するかもしれませんし、ひとつの建物として別の名称を付けて、その中に〇〇ホールと〇〇公民館となるかもしれませんが、いずれにしても、その名称については未定でございます。ご理解をお願いします。

(田中昭平委員)

今の説明は、施設の利用状況の概要といったものなので、これから作る方向性とか目的からする機能の問題を、具体的な問題と関連して協議していかないと、ただ説明ばかり聞いただけでは資料にすぎないと思います。

公民館について、市民から言わせると昔からある最低限な施設であるので、いよいよ（仮称）厚生産業会館ができるということは、市民にとっては朗報であると思います。公民館は社会教育の実施機関です。（仮称）厚生産業会館を作るから、今までの建物が古くなったからといってこれを移して、貸し館を作り、その中に公民館機能を入れましょうということですが、根本的な目的理念を明確にしていかなければ、ただの貸し館の部屋だけ与えられて手数料だけ取っているようではいけないと思っております。私は、公民館の社会教育は「新教育、新道場」の実施機関であると思っており、このようなことで社会教育の専門的な立場で、その施設をどうするかということを考えていかななくてはならないと思います。これをごちゃごちゃで考えないで、独立で考えていかないと結果的に良い方向性は出てこないと思う訳です。しかも、今は「男女共同参画社会」の実現とあいまって、女性の社会参加と学習参加が非常に積極的となっている訳です。そうすると、若いお母さん方は小さいお子さんがいる訳で、保育施設や学習する場も当然必要になってくる訳です。また、働く青少年達は夜間勤めを終えて学習活動をする場所が必要となると、セルフ形式程度の軽食がとれるような場も必要になってくると思われまます。社会教育の学習効率を高めるために、映像文化を駆使した視聴覚的な方向も整備しなくてはならないと思っておりますし、或いは、音響施設を整えた音楽教室や芸能教室も必要であると思っております。とにかく教育の施設として、十分に整ったものにしなければならないと思います。ですから、そういったものに対する（仮称）厚生産業会館と公民館をどう位置付けてやっていくのかという目的を明確にしていかなければならないと思う訳です。一方的に建物を作ってしまうと、「はい、公民館を移しました」「はい、事務所の世話をしてください」ということでは、本来の上越市の教育の進展には程遠いものになると思います。公民館という教育機能として、21世紀の新しい上越市の社会教育進展のため、しかも上越市高田地区の公民館であるとともに、上越市の中央公民館的な役割を果たす道筋になると思います。（仮称）厚生産業会館と公民館との関係を機能的に、しかも目的からしてどんな風に施設を同じ場所に作るかを考えたらいいか、はっきりしてもらわないと、もやもやしている感じがします。これは、私の意見です。皆さん大きな関心を持っていますので、そうゆう面についてもう少し説明だけでなく上越市の社会教育がどうあるべきなのか、専門的に多面的に考えてい

かなければならないと思うのです。

(赤羽委員長)

ありがとうございました。公民館として充実した機能を考えていこうということであったと思うのですが、我々が、今議論しなければならないことは、これまでの施設の稼働状況を踏まえて新しい会館、施設が必要かどうかということだと思います。

事務局からの説明が30分ほどありましたが、ポイントは、このホールのニーズは不足しているということで、稼働率100%の状態であるために抽選で当たらなければ利用できないという状況が、特に11月に集中しているという状態です。リージョンプラザの場合、4月、7月、11月と3カ月もあり、もうひとつは、平土間の稼働率が高く雁木通りプラザや春日謙信交流館にある平土間の稼働率が非常に高い状況です。そして、くびき希望館の稼働率は低いですね。それに対して高田、或いは春日地区等の市の中心部にある施設は稼働率が高いということでした。こういったデータを踏まえれば、やはり必要なのかなという結論に導かれるのですが、その点はいかがでしょうか。

(渡邊委員)

渡邊です。事前に配られた資料の稼働率とパワーポイント資料の1ページにある資料など、この位置関係からして、高田地区にこの規模は必要なのかなと思います。

(赤羽委員長)

要は不足しているということで、市民のニーズに対応していかなければならないので、やはり結論からすると必要なんじゃないかということになりますね。そしてホールと公民館ということですが、先ほどの田中委員様の意見に関連させれば合築という考え方であり融合ではない訳ですよ。併せて作るということですので、公民館は公民館機能として独立性の高い公民館として作り、ホールはホール機能として作る、それを共に同じ場所に作るという合築の考え方はいかがでしょうか。

(田中昭平委員)

合築の件について前回欠席しましたが、説明を読んでもそんな意味あいの説明が書いてありましたね。ただ、厚生産業という文字が入っていますよね。これは、補助金の関

民館については、ホール機能と混合になったような使い方ではなく、公民館機能は公民館機能としてきちっと確保した中で作っていく、そういうことで合築と考えてもらいました。先ほど委員長さんからもありましたが、融合ではなく、あくまでも違った性質のものを一体の建物として合わせて作るということでございます。また、田中委員さんから、ご意見をいただいた公民館の施設のあり方、施設の充実、そういった所は、今後、具体的な建築の計画の中で考えていくことになると思いますし、また、公民館活動のあり方を見据えた上で、今現在の課題はあるかとは思いますが、今回の計画を契機に検討されてもいいのではないかと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

(田中昭平委員)

今ほどの課長さんの説明に関連してもうひとついいですか。産業という名前がおかしいから外してくれと言っている訳では無いのです。作るときに産業の活性化や経済活性化に役に立てるものの中に何か作ってもいいのではないのですか。産業となった以上、入ったら中に、そうゆう面もあっていいなあということ。名前だけあって、中身が何も無いのは、おかしいのではないかな。これは要望意見です。いま結論を出してほしい訳ではありません。

(赤羽委員長)

文章の中に展示会となっていますね。以前は、旧厚生南会館ではスキー発祥の地としてスキー産業の展示会、家電関係の展示会もあった訳ですから産業とも関係していくのではないかと思います。

(秋山副委員長)

市民のニーズということで委員長さんが(案)をまとめていただいて、もう少し丁寧に説明をお願いしたいということがありまして、稼働率が高く100%というところが3カ月あるということでしたが、全体の資料を見た中で、休日の稼働率が100%というところが文化会館、リージョンにありました。意外と平日とか月平均では低いのだなという印象がありました。先ほどの説明の中で、一箇所でも使っていれば稼働という説明でしたが、文化会館の大ホールと中ホールでは使われ方も違っているので、部屋毎での稼働率が出せるものでしたら、そこから、今度作るものがどの程度のニーズがあるかというのが見えるの

かなと思いますので、もう少し丁寧に説明いただいた方が良いと思いました。

(赤羽委員長)

稼働率は、部屋毎に把握できるのですか。

(阿部副課長)

資料としては調べればあるのかと思いますが、今回の稼働率の目的というのは、どちらかというホール規模をどれ位のものにしたいのか、ということを中心に検討したものです。小さい部屋というのは、いろんな所がありまして小さい部屋の規模を検討することではなくて、ホールの規模を検討することで調査をさせてもらいましたので、ホールを検討する中で参考になるところでの調査をしたところでございます。

(秋山副委員長)

施設の中でも中ホール的なものと大ホール的なものということでしょうか。

(阿部副課長)

例えば文化会館ですと大きいホールということで、大ホールの稼働率です。中ホールなど小さいものは調べていません。今回、検討しているホールの規模を検討する参考になるような施設の調査をしたということでもあります。

(赤羽委員長)

細かいデータは、把握できるようであれば出していただければと思います。他の委員の方はいかがでしょうか。

これにつきましては、これ位でよろしいでしょうか。

続きまして、各種団体からの要望内容につきまして説明をお願いします。

・議事-2 (阿部副課長)

各種団体からの要望につきまして説明いたします。

昨年10月から12月の間に市内の6団体の方から要望をいただいております。その要望内容として、ホールとしては施設の使い方としてこんな使い方をしたいということで演奏

会の発表、社交ダンス、演奏団体の練習場、中規模のコンサートや展示会、このような使い方をしたいというようなお話がございました。施設規模に関しましては、800 m²位のスペースが欲しいとか、客席数で言うと700～800席がほしいとか、1000人規模の展示会をしたい等の要望がありました。また、施設設備につきましては、音響関係の充実や防音関係、冷暖房関係を充実させてほしいという点、あと細かいところだと床材質につきましては、ダンス練習の団体の方々が若干こだわっているところがあります。その他として、併設して研修室や調理室がほしい、大型楽器を入れる保管庫がほしい、また、子供も一緒に利用できるような機能もほしい、立体駐車場の方が使いやすい等の意見がでております。ロッカー室やシャワー室もほしいとの意見もありました。建設場所に関しては、公共交通の利便性、また、高田地区でという要望も中ではでております。簡単でございますが、以上です。

(赤羽委員長)

ただいまの説明につきまして、ご質問ご意見等ありましたらお願いします。

各種団体から要望がでているわけですが、ホールの規模や設備、或いは建設場所について要望が出ておりましたがいかがでしょうか。

(秋山副委員長)

要望があった6団体の内容をまとめたものを見させていただきましたが、付随するようなことで、今現在、高田地区公民館を利用されている団体で、高田地区はとても団体活動が盛んで、数としては多数の団体があると思います。その団体の方が、どうゆう所で活動されているのか、若しくは今後どんな期待を持っているのかを聞くような予定はありますでしょうか。是非、アンケートなりを取ってはいかがでしょうか。

(阿部副課長)

後半の方でも説明させてもらいますが、この要望資料に関しては要望に来られた団体の方々の内容を説明いたしました。後ほど、現在いろいろな施設を利用されている方々からのヒアリングをしましたので、資料4の方で説明させていただきます。

(赤羽委員長)

様々な団体から要望があったということですね。

(秋山副委員長)

それは公民館を利用している団体からですね。

(阿部副課長)

資料 4 では、文化会館とリージョンを使っているホール系の利用団体からのヒアリングをしたものですので、公民館の部分は、今後、利用団体からヒアリングしたいと考えております。

(赤羽委員長)

ほか意見ありますでしょうか。なければ 3 番目としまして、「(3) 全国類似施設の視察結果について」説明をお願いします。

・議事-3 (松井主任)

ご苦勞様です。時間の関係もございますので、事前にお配りをさせていただいております資料-3 の「(3) 全国類似施設の視察結果について」につきまして、簡単にご説明させていただきます。資料の方もご準備をさせていただいたのですが、施設の要点とまとめの形でお話をさせていただきますのでよろしくお願いいいたします。資料 1 ページ目でございます。視察を行った施設の選定のポイントですが、施設の建設年度が直近であるということ、ホール機能が音楽系や演劇系を中心とした多目的なホールであるということ、客席数が、今事務局で考えております 300～500 席程度の席の施設を中心に視察をさせていただいております。また、客席が稼働式で、要は座席が収納できるホールである、或いは人力でセットする平土間の施設を持っている所を対象に視察させていただいております。3 ページ目になります。視察をさせていただいた施設ですが、福井県にあります福井県の県民ホール、静岡県のメロウプラザ、東京都の座「高円寺」の 3 施設を視察させていただいております。

まず、福井県のホールでございますが、平成 19 年度に竣工しました多目的ホールをもった施設でございます。施設の立地につきましては福井駅から徒歩 1 分の近距離でありまして地下駐車場が 170 台ほど設けております。客席数は 570 席で、全面が平土間になるという施設でございます。写真の方につきましては、お配りした資料の中に載せてございます

ので説明は省略させていただきます。こちらの施設は駅前にあるビルの中に県の県民ホールという施設と、福井市が管理をしております福井市の施設が複合されています。福井県の県民ホールにつきましては、舞台面積、客席面積ともに 382 m²ございまして、当市のリージョンプラザやくびき希望館ほどの施設になろうかと思っています。形式につきましては、そこに掲げている通りでございますので説明を省略させていただければと思います。1点ここで気付いたことについては、舞台面積が先ほど説明させていただいた当市の類似施設と比べますと非常に大きいというのがおわかりになるのかなと思っています。客席面積と同じ位の規模がこちらの県民ホールではとられております。

続きまして、静岡県のメロウプラザになります。資料 24 ページになります。平成 22 年度竣工になりまして、多目的ホールを備えた当市が今、計画をしております公民館機能と合築をされた施設でございます。客席数につきましては、507 席程度ございまして席が全て可動するような仕組みになっております。こちらの施設の特徴としまして舞台部分ステージと客席がさらに一体型になる仕組みになっておりまして、前方のスクリーンにもございますが、ピンク色の矢印部分になりますが、ホールと外の芝生部分が一体的に使えるようにホールの壁が筒抜けとなり行き来ができるような非常に特徴のもった施設でございます。

続きまして、東京都の座 高円寺の施設でございます。資料 44 ページになります。こちらは、平成 21 年度に竣工されました多目的ホールを 2 つ持っております施設です。施設の規模は若干小さいですが、238 席と 256 席の 2 つのホールを備えておりまして、JR 高円寺駅から徒歩 5 分という好立地の場所にあります。東京都内ということもありまして、非常に JR の運行も盛んにありますし、車の往来もたくさんあるところですが、施設の中に入ってしまうと振動や騒音など全く聞こえず非常に立派な施設であります。こちらの施設の規模につきましては、客席面積は、くびき希望館よりもやや狭いですが、客席数は 238 席ありまして非常にゆったりとした演劇を中心としたホールが載っております。それから舞台面積につきましても、リージョンプラザとほぼ同じくらいの舞台面積を備えております。

最後に視察のまとめというところで、資料 65 ページから 4 項目にわたりまとめてございます。簡単にご説明をさせていただきます。施設全体として、委員の皆さまからお話がありました、ホールと公民館の連携の部分が非常に大切ではないのかなと思われま。特に利用者のニーズにそった貸し館の方法を考えるとといった部分につきましては、施設管理

者、或いはこの施設をご利用されている皆様方からもいろいろお話を伺っております。それから施設のエントランス部分の配置の方法ということでございます。合築の施設ということになりますと、ホールに対する入口、或いは公民館に対する入口ということもございまして、今ほど事務局からもご説明させていただきましたが、相乗効果をもてるようなエントランスの配置といった部分は、今回のご検討の中でも参考にさせていただければいいのかなと思っております。視察まとめ2ですが、ホール機能についてですが、当然のように利用人数とその方向に見合った部屋の大きさや部屋の数といったものに対して、十分な想定をしなければならないのかなと思っております。ここで施設を管理されております方からアドバイスのなお話いただいておりますので、ご紹介させていただきます。大きさといった部分も非常に大切ですが、部屋数といった部分に関しても計画の段階では色々な意見をお聞きする等、重要なポイントである旨のアドバイスをいただいております。先ほど少しお話をさせていただきましたが、舞台の広さ高さについて、利用の目的によっては、客席の方に映る感覚が変わってくるといったこともございまして、先ほどの当市の類似施設と比較をしても、今回の視察をさせていただいた舞台は広い感じを受けております。音響施設といった部分でございますが、音楽系の想定もさせていただいている中で、音響レベルをどの程度まで高水準にするかといった部分は、非常に関心のある場所ではないかと思っております。非常に立派な施設にしても使用頻度が低いのでは、もったいないという意見もございました。今回の参考にさせていただければと思っております。それから客席のゆとり、勾配の部分につきましてもアドバイスをいただいております。続きまして67ページでございます。先ほど事務局よりお話をさせていただきました通りでございます。こういった部分が検討の参考になればと思っております。最後に68ページですが、④1点目だけご説明させていただきます。視察先の市内にも沢山の類似施設がありまして、今回視察をさせていただいたところでは、その目的を施設毎に定めて競合を避けるという色々な方法をとられている市がございました。今回のご検討の中でも参考にさせていただければと思います。以上、簡単ですが説明を終わります。

(赤羽委員長)

どうもありがとうございました。只今の説明につきましてご質問ご意見がございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

(渡邊委員)

私が応募したときに書かせていただいたことですが、清水委員さんからもあったように、私、今日ここへ来たのが10何年ぶりになります。施設は見に来ないところといった感じになってしまうのですが、先ほどから議論がありますが、公民館機能、産業で言えば展示会もそうですが、上越テクノスクールみたいな講演会も産業の一つだと思いますが、とにかく年間の稼働率と利用状況を上げて、そこが高田地区では、市民の皆がよく知っていて、よく利用するという事になればいいのかなと思うなかで、この維持管理費を安くするという事と、皆が来やすい環境と来たい環境ができるのが一番なのかなと思います。

(赤羽委員長)

ありがとうございました。3つの視察について説明があったのですが、参考になるのは10ページのプロセニウム形式、コンベンションスクール形式、或いは平土間形式ですね。こういった端的な利用が可能なホールが作れば、市民の多様なニーズに対応できるのかなと思います。

(秋山副委員長)

可動式の椅子についてですが、今までは揺れるというのが普通ですが、最近のこの建物をご覧になって、3施設の可動式で揺れとか幅に関しては、少し技術が進んで良くなっているというような認識でよろしいのでしょうか。

(松井主任)

3施設とも可動式の椅子ですが、階段を登るときの音、座ったときの感覚や音は、ほぼ固定の椅子と変わらない状況でした。それから椅子そのものの形にもよるそうですが、現在は、さらに改良も進んでいるということも伺いました。

(赤羽委員長)

現在は、良くなっているということですね。

(田中昭平委員)

施設の説明がありましたが、利用者の立場の問題としては駐車場ですが、敷地の狭い所

に立体駐車場が考えられますが、長野駅前に立体駐車場がありますが、素晴らしく非常に立派で効率的な駐車場になっています。ご存知かと思いますが、その辺の説明をお願いします。

(松井主任)

福井県の県民ホールにつきましては、近隣に立体駐車場がございまして、非常に稼働率もある状態だと伺っております。ただ、この施設は複合施設でありますので立体駐車場を利用してこのホールを利用される方や JR を利用してご旅行される方等、様々利用方法がある感じです。福井にはそういった立体駐車場の施設も備えつけられています。

(田中昭平委員)

長野市には、駅のそばに立体駐車場がありまして、これが非常に便利です。何か機会がありましたら、この駐車場を参考にさせていただきたいと思えます。

(赤羽委員長)

ありがとうございました。他に無いようであれば、ここで5分間の休憩をとります。

(赤羽委員長)

それでは再開いたします。これまでの3つの議事はどちらかという報告でありました。これからのが本当の議題で大切な所となりますので、よろしくをお願いします。

この施設の基本コンセプトは、機能、施設内容についてでありましたが、ホール機能と公民館機能を合築するか、または単独の機能とするのかという点があります。合築は先ほど課長さんからも説明がありましたように、ホール機能と公民館機能は対等なものであって、どちらかがどちらかに従属するものではありません。それぞれが自立した機能を果たし隣り合わせた同じ場所に作って、しかも両者の相乗効果が発揮できるような施設を考えていることでありました。この合築ということで進めてよろしいかどうか。それについてご意見いかがでしょうか。

(田中昭平委員)

合築という言葉は、私、初めて聞いたのですが、昔から使われていたのでしょうか。

(田中弘邦委員)

一つの建物の中にその機能を備えるっていうことでしょうか。だから産業と公民館は別にそばに分離して作るか、それとも全体の中で作るのか、ということなのでしょう。

(赤羽委員長)

そうですね。融合型なのか、分離型なのか。独立していても隣あわせて同じ場所で相乗効果を発揮させるということは、やはり公民館を利用する人達も、ホールやホールに付随した音響効果もある練習室も利用できることや、また、ホールに集まる人達も公民館の会議室も利用できる様にするといったことだろうと思うのです。

(田中弘邦委員)

併設して分離して公民館を作るか、一つの建物の中に全部の機能を入れるかどうか、ということでしょうか。

(赤羽委員長)

一つの建物の中に両者を入れて 1 階にホール、2 階が公民館というそういったことではないですね。

(奥田課長)

パワーポイントをご覧ください。図面が表示されてありますが、左側のピンクの部分と黄色の部分があります。一つの箱の中に合わさっていますが、これを同じ合築と言っています。左側が一体型で、ピンクとエル字型の黄色い部分がございますが、この部分の形の所が一体型となっております。合築して一体型となっております。それから右側の方ですが、ピンクと黄色の部分がそれぞれつながった形です。これが分棟型で、真中に玄関部分があって、それぞれピンク色のホールと黄色の公民館があります。これらの両方共を合築で、要は一つの建物として扱っているという状態であります。あくまでも私どもは、一つの建物として扱うことを考えております。ホールと公民館を別の敷地に建てるのではなく、一つの建物として考えているということでございます。

(赤羽委員長)

合築とは同じ敷地に一つの建物として建てるということですね。そこには一体型と分棟型の二つの形がありますが、同じ敷地に建てるということでもあります。それで合築でよろしいかどうか。

(熊田委員)

確認させていただきたいのですが、高田地区公民館が耐震構造の問題で建て替えの必然性があることも理解できるのですが、一点、確認させていただきたいのが、今、分棟型、一体型とご提案いただいたのですが、公民館機能を一つの事業として見る、もうひとつとして(仮称)厚生産業会館のホール機能をひとつの事業として見ますと、この事業というのはまったく別なのでしょうか。それと、(仮称)厚生産業会館のなかで公民館事業が行われるのか、また別に、公民館事業の中に産業会館のホール運営事業が行われるのか、そういったところの解釈がどうなのかと思ひまして、質問させていただきたいと思ひます。

(赤羽委員長)

その辺いかがでしょうか。

(阿部副課長)

事業として別になるかどうかのご質問なのかなと思ひますが、実際どうなるかというのは、協議の中で決まってくるのかなと思ひますが、ひとつ言えることは、どちらの施設も市が責任を持ってやっていくということですので、市民の方が使いやすいような形の中で利用を考えています。

(奥田課長)

今の熊田委員さんのご質問ですが、公民館事業とホールとしての事業、その辺の意味合ひですが、あくまでも公民館の運営は公民館事業でやっていくことになると思ひますし、また、ホールはホールとしての運営をやっていくことになるだろうと思ひます。ただ、施設を一つの建物で作ろうとしていますので、施設の管理については、市役所の公民館の担当部署が一体的な管理をしていくことで考えております。先ほど申し上げましたように、機能そのものは、独立した機能をもって、建物は一つというように考えておりますので、

事業ということになりますと、中々、私も区分けがどう対応していいか分からないところもありますが、基本的には、それぞれの機能が独立した形で合わさって建物の中に入るイメージです。先ほども申し上げましたように、その両方が相乗効果を持って、利用者の方々に使いやすい、来ていただきやすく多くの方々に使っていただける施設を目指してきていきたいところでございます。そのような説明でよろしいでしょうか。

(田中昭平委員)

しかし、公民館に全ての建物の管理を一任すること自体に問題があるのではないですか。そういう施設にして、公民館の職員が管理をしていくこと自体が、果たして可能かどうかということと、教育圏という立場で本当に良いのかどうかということです。さっきから言っていることは、建物は（仮称）厚生産業会館で、中に入ったらここは高田地区公民館、又は上越市中央公民館という看板が付いていて、市民がそこから入ってくる、そして公民館活動をしていく、それが原則的な考え方ではないでしょうか。建物全部を公民館職員に任せてという簡便的な話になりますかね。しかし、建物と通路が繋がっているわけですから、共有できるところを作ったり、何かをやったり、これはいいことじゃないですかね。（仮称）厚生産業会館というものを一つの建物とすれば、監視員を用意して、公民館は公民館の今までの人員でいくというのが普通ではないかと、私はそう思います。課長さんのおっしゃる意見と少し違うかもしれません。以上です。

(小林都市整備部長)

今ほど公民館とホールの合築といいますか、管理の話が続いておるわけですが、基本的には田中委員が言われる通り、社会教育の機能、公民館の持っている機能そのものを新しく作る建物の中で確保していく、というのは基本的な考え方として持っています。建物の物理的な管理、そのものをどうするかということは、今後の検討課題になるのかなというふうに思っていますけれども、言われる通り、社会教育の拠点として公民館を充実していくという点につきましてはまったく同じく、市として持っておりますということでご理解をいただきたいと思っております。

(赤羽委員長)

公民館事業、ホール事業としてきちっとやっていくこととさせていただきます。更に、社会教育、

生涯学習として公民館事業はやっていくということでございました。ホールと同じ敷地に建てられるという事でございます。スタイルとしては、先ほどあったスタイルということでございます。田中委員のご意見は、そこははっきり分けるということではないわけですよ。ですから、分棟型のイメージとしてとらえてよいでしょうか。建物が連携した形ですが。

(田中昭平委員)

当然そうでしょう。

(清水委員)

多分、建設コストとかが問題となっていて、資料1は音楽ホールや演劇ホールを中心に考えられている部分の資料だと思います。多目的ホールという名目で頸城の希望館であるとか、春日謙信交流館であるとかは資料であるのですが、公民館関係の資料ということになると、直江津地区のカルチャーセンターであるとか、脇野田地区のラーバンセンターであるとか、公民館機能を備えた部分の資料が必要となってくると思います。建設コストで合築ということで考えていくと、一体型の方がコスト的には掛からないと思います。先ほどの3つの施設で福井、静岡、高円寺で、私が行ったことがあるのは高円寺だけなのですが、2階建ての建物で、一つの建物にうまく収まっています。先ほど、田中委員がおっしゃられた通り、収納型の駐車場、そういったものも合築されております。今回の議題の中に合築という意味の一体型施設という意味では、建設コストを考えて一体型の方が、私の個人的な意見では良いのかなと思います。

(赤羽委員長)

コストを考えれば一体型の方がよろしいのではという意見もありますが、今のポイントについては、両者どちらかということではなく、合築かどうかということでもあります。同じ敷地の中に公民館、ホール二つを作るということでもあります。

(奥田課長)

今、委員長さんからお伺いいただいているところは、分棟型か一体型かその辺は敷地の問題とかで変わってくるかと思いますが、清水委員さんがおっしゃられたとおり、建設コ

ストを考えるとということもあるかと思えます。分棟型も一体型もどちらも私どもは合築と呼んでおりまして、まず、その辺を議論していただければと思えます。一体型であっても公民館については、中へは公民館ということで、きちっと分けることができると思えますし、そういったことをお含みいただきながら、まず、合築かどうかということの議論をお願いしたいと思います。

(田中昭平委員)

合築という言葉を使わないと補助金の申請とかにはまずいのですか。

(奥田課長)

合築という言葉は補助金には関係がございません。一般的には馴染みのない言葉でございますが、建築の設計の方では、こういった機能を2つに合わせて一体的に作る場合は、合築という言葉を使うことがあります。建築の専門的な言葉かもしれません。馴染みのない言葉かもしれませんが、この言葉を使わせていただきました。

(田中昭平委員)

新潟、長岡、上越の3つの城の中心拠点となるものですから、公民館が入ってみて、2階のどっかいたら公民館の看板がなかったということがないように、教育の独自性、独立性というもの、社会教育を断固として、公民館は実施機関として市民にアピールしてもらいたいと希望と願いがあります。

(赤羽委員長)

ありがとうございました。それでは一番のポイントであります、ホール機能、公民館機能これを同一の敷地に合築でいかがでしょうか。或いは全然違う敷地に建てた方がいいのかということですが、いかがでしょうか。

(甲田委員)

甲田です。今まで皆様のご意見とお話を聞かせていただいて、私も文化会館さんであるとかリージョンさんであるとか利用させていただいておるのですが、要するに合築とかそういったことも重要なことですが、利用する市民の側としては、要は別でも一緒でも利

用しやすいことが大事だと思います。公民館がこの中に一緒になってしまったからどのということではなくて、公民館を利用するのも市民だし、ホールを利用するのも市民だし、公民館でいろんなことを学んで、勉強して、活動している方たちが、隣のホールを使って、いろんなことを披露したり、そういうところで勉強したりということもしていると思うので、どんな形であれ、市民が利用しやすい場であれば、公民館とホールの事業をどうしていくかというのは、これから先であればいいことで、今の段階では、一緒になった段階で市民皆が利用しやすい環境の建物が建てば良いというところで話を進めていったほうが、ここで建物がどうなるとか、ここで活動していくためにどうするのかという話に留まってしまうと先に行かないような気がするので、市民が利用しやすい場を提供していければ、一緒でも私は十分、同じ建物の中に入っている、今後、その先にどう機能させていくかということをお話し合えば、十分もっていけるかなと、利用している一般市民としてはそういうふうに思います。

(赤羽委員長)

ありがとうございました。利用しやすいという点が大事なのではと、そういった効果も考えられるということですね。合築に否定的な意見ではなかったかと思います。他にご意見はなかったでしょうか。

(各委員)

ありません。

(赤羽委員長)

一番大事なところですね。ホール、公民館を合築するということによろしいでしょうか。

(各委員)

はい

(赤羽委員長)

それでは当委員会としてはホールと公民館を合築するものとして今後の検討を進めていきたいと思います。

次に、ホールの機能として、どのような機能を想定するのか皆さんのご意見を伺いたいと思います。市民のどのようなニーズに対応したものなのか、いかがでしょうか

(渡邊委員)

各種団体さんからの要望内容を読ませていただいた中で、あと利用率を上げるということを考えれば、平土間で可動式の座席も出てくるホール機能も兼用できるタイプがよろしいんじゃないかと思います。

(赤羽委員長)

平土間ですね。雁木通りプラザや春日謙信交流館では、平土間の利用率が非常に高いという報告がありました。それと階段型の椅子、しかも可動式、それを組み合わせたものが良いという意見でしたね。

その他、意見はありますでしょうか。

可動式の椅子にすることは、複合的な利用の仕方がありますね。固定椅子ではないわけですから。多目的なホールにするのか、音楽系の専門のホールにするのか、ダンスやエアロビクスやヨガの軽運動系も含めた利用もできる複合的な多目的なホールにするのか。いかがでしょうか。

(阿部副課長)

若干説明をさせていただきますが、どのような利用を市としては想定しているのか、あくまでも参考ということで聞いていただきたいと思います。

いろんな関係団体の方々からの意見として想定するものとして、コンサートや発表会等の音楽系、講演会やシンポジウム、説明会等の会議系、後は、座席を収納してのダンスや軽運動、展示会や販売会、このようなことが想定される使われ方なのかなと思います。逆に、想定をしないものとして、多目的ホールではあるがバスケットやバレーボール、フットサル等のスポーツ系、また剣道や柔道等の武道、少し悩んでいるところが興行系です。昔は厚生南会館で、プロレス等がされていたということもありますので、こうしたものを想定するのকাশないのかが悩ましいところでございます。以上です。

(赤羽委員長)

ホールの利用の想定ですれども、コンサートや講演会、軽運動のダンスやエアロビクス、

そして展示会等として、更に、運動系のバレーボール、バスケットボール、卓球、柔道剣道も含めて多目的とするのか、あるいは運動系は除外して考えた方がいいのか、いかがでしょうか。

(田中弘邦委員)

万屋みたいに使えるなら何でも使えばいいのではなく、ある程度目的に添ったきちっとしたものを作っていないとまずいと思います。想定しないものは、また別に考えるべきものであって、多目的といっても何でもかんでもやったらおかしくなってしまうので、想定してないものは、あまり考えない方がいいと思います。

(赤羽委員長)

そうですね。運動系を含めた網、卓球台、柔道の場合の畳、バスケットの場合だとボード、ポール等、収納施設も必要になりますし、こういった運動系は体育館がよろしいのではないですかね。旧厚生南会館ではバスケットボールやバレーボールもやれるようになっていたかと思いますが、現在考えている（仮称）厚生産業会館は、運動系は想定しないというふうでよろしいかどうかですが。

(甲田委員)

今、言われたように運動系のものとなるとホールということで、今回の資料で市内の文化会館のホールですとかホールの利用状況を資料としていただいていることを考えると、運動系を想定しているということは私には見えなかったもので、中の資料を見たところでも、音楽系や演劇系で利用されている方たちが非常に多いようなので、やはりそうなると音楽系やコンサート、会議をする想定で建てた方が、ニーズに応えられるのではないかと思います。文化会館さんで、ある程度 100%の稼働率の月もあるという話ですが、そういった音楽演劇関係の方たちが 100%の中にどの程度の割合で利用しているのかということで、100%ということは、その時に利用できない方もいるということもあると思うので、どんな団体の方達が利用したいと思っているか、そのことが分かれば、おのずと何を中心としたものをここに建てれば、利用できなかった方達が新たに建った所で利用できるということで、それが緩和されていくことにもつながるかなと思うので、スポーツ関係のものは、また別の場所でやっていただければいいのではないかと、私個人の意見として思います。

(赤羽委員長)

ほかにご意見ありますでしょうか。

(田中昭平委員)

旧厚生南会館を作ったときに、最初バスケットもしてもいいような形で作りましたが、結局、床が耐えられなくて厚生南会館は、今の説明であったような想定しないものは、一切使われていないと思っております。それはやっぱりホールだから、田中弘邦委員が言われたように想定しないものは外した上で、次の議論を進めた方がいいのではないかと思います。

(熊田委員)

田中昭平委員さんがおっしゃった通りで、厚生南会館の興行の関係で色々と口利きなどさせていただきまして、例えばなんです、7番の観点からも全国的に今回の(仮称)厚生産業会館がどうなるのかと注目を集めております。願わくばですが、コンサートや音楽等もそうですが、入場券収入が掛かるものを興行と見なすならば、例えば、全国の他の施設の入場券収入が掛かってきたものに関しては、一般の施設利用料の1.5倍の150%徴収をしたり、200%とは言いませんが、180%までは徴収する想定になっておりますので、収入源を上げるという意味でも、やはり多様なニーズに答えられる演劇、講演、音楽、展示会も興行も一つの収入源の観点として入れていただければなど、声なき声を代弁させていただくならばそう思いますので何分御取り計らいなどよろしくお願いいたします。

(赤羽委員長)

旧厚生南会館は、よくプロレス等に使われていたのですか。アリーナ形式が一番よろしいのでしょうか。

(熊田委員)

想定されているフラットなアリーナの可動式ということでございますので、アリーナであれば、全然問題ございません。施設の方も壊したりしないように、私も仕事をさせてもらいたいと思います。

(佐藤委員)

今のお話でアリーナというお話ですが、コンサートホールの音響設備の整った施設とアリーナというものは共存するものなののでしょうか。

(熊田委員)

フラットな平面としてのアリーナでございまして、こちらの方で言いますと、床がどうかとか土足厳禁とかでなければ、一切、私共としてはこだわらないと伺っておりますので、主目的としては、コンサートや演劇として先方さんも理解されておりますので、そちらの方の充実も図られて、もしよろしければお借りできないかということでございます。

(佐藤委員)

はいわかりました。

(赤羽委員長)

他にありますでしょうか。皆さんの意見を伺っておりますとホール機能の想定する用途として、コンサート、音楽、ダンス等の軽運動の範囲内がよろしいのではないかを思われます。バスケットボールやバレーボール等まで広げない方が良いのではないかというご意見が多かったように思います。結論として、ホールの機能の想定は、多目的とはいえ、運動系までは想定しないということによろしいでしょうか。

(各委員)

はい。

(赤羽委員長)

では、今後はその方向で進めていきたいと思えます。最後に、ホール機能として座席を収納する可動式ということですが、多目的であり収納するということは、平土間がそこに現れてくる訳です。そのようなホール機能でよろしいかどうか。

(清水委員)

平土間で収納式の座席ということですが、揺れるということや音楽の演奏の最中に人が

席を立つと揺れて音もするといったような今までのものとは違って、色々な種類のものも民間で発売されていて、私も建築関係にいますので理解しているつもりですが、最近は、随分、変わってきておりました、収納型の座席でもいい物も出てきておりますので、その辺を検討の中に入れていただいて、平土間で座席の収納型で、最新型の物を採用していただければ、音楽ホールとして演奏の最中にも音がでるとか揺れるという問題も発生しないのかなと思います。できれば、平土間で収納型の座席にした方が、多目的ホールとしての機能が果たせるのではないかと思います。

(赤羽委員長)

はい、ほかにご意見はありますでしょうか。

(田中昭平委員)

ホールの広さは、今ほどの視察のところから、或いは建築の基準規模とかからして、事務局の説明を聞くと、中程度のホールの広さになるのか、その辺の決定はしないのですか。できるだけ広い方がいいと思いますが、予算の関係や上越市のバランスから、今回は中程度の広さでいこうという考えなのでしょうか。

(奥田課長)

ホールの規模につきましては、この後の説明でご議論をいただくということをお願いしたいと思います。庁内検討委員会の中では、席数数は500席位できておりますけれども、この辺も、利用者ニーズを把握した上で皆さんからご議論いただくということで考えております。

(赤羽委員長)

ホールの機能の座席を収納式とすることということですが、これについて他に意見はありますでしょうか。軽運動系にも対応するというのであれば、可動式にして、そこに平土間が現われた方がいいと思いますね。それでは、このホール機能は、座席が可動し収納される多目的なホールとするということによろしいでしょうか。

(各委員)

はい。

(赤羽委員長)

はい。それでは、今後の検討は座席を可動式にして多目的なホールとして検討を進めます。続きまして、5番目の議題でございますが、施設規模の説明を事務局よりお願いいたします。

・議事-5 (北島係長)

それでは、資料4の施設規模について説明をさせていただきます。この資料は市内類似施設のホールを利用している団体の現在の活動状況などを中心に、希望される席数等をお電話で聞き取り調査を行ったものでございます。調査団体は14団体でございますが、うち4団体は、要望団体になりますので聞き取りは行っておりませんが、2団体につきましては、ダンスの団体でございます。今ほどの話のことでいる平土間を利用している団体でございますので、調査の対象とはしておりません。パワーポイントで説明させていただきますので、スクリーンをご覧ください。まず、調査団体数は16団体とさせていただきました。調査内容でございますが、希望の座席数と関係団体の皆様方が、ご利用になられるための交通手段、来場者の皆様方がご利用になられる交通手段も併せてお聞かせくださいということで、聞かせていただいております。聞き取りを行った調査団体の条件ですが、まず市民が中心の団体であること、定期的な施設利用があること、まとまった利用者が多いことということで、興行系は除かせていただきました。事務局といたしましては、あくまでもジャンルや活動内容等に重点をおいて、幅広いジャンルでお聞かせをいただいたということでございます。上から民謡、バレエ、吹奏楽等幅広い団体の皆さんからお聞かせいただいておりますし、要望書の団体の皆さん方には、民謡から郷土芸能、フラダンス、よさこいということで多目的な利用形態の皆さまからお聞かせいただいたということになります。

まず希望の調査結果でございますが、500席以下で、4団体25%の団体の方が500席以下を希望されておりました。続きまして501席から700席は6%で1団体からでございます。そして、701席から1000席までは、69%で約7割の団体の方が希望されておりました。最後に1001席以上の方はゼロで希望される方はございませんでした。このような結果になっておりますので、議論の参考にしていただければと思います。簡単な説明ではございますが、事務局の方からは以上でございます。

(赤羽委員長)

席数について説明がありました。当初、事務局で 500 程度を考えていたのですが、只今の説明からしますと 700 から 1000 席位が多いということですね。その次が 500 席とありました。これにつきまして、一番初めに説明のあった市内の類似施設の稼働率も参考になるかと思えます。この規模について、何かご意見ありましたらお願いします。ホールについてであります。いかがでしょうか。

(清水委員)

既存の施設で、文化会館の大ホールが 1500 席、リージョンプラザのコンサートホールが 500 席です。稼働を考えれば、先ほどの委員会のなかで説明していた 500 席という目安は妥当ではないかと思えます。でも、希望を見ると 700 から 1000 席ということで、大きな座席数を皆さんが望まれていることが分かりました。参考資料の中にあつた稼働率ということを見ると、例えば、文化会館の大ホールは 1500 席あつて、休日の稼働率は高いが、平日や月別稼働率が 50 から 60%が主なものですから、それほど利用はされていないという実情が分かります。ただ、今までこの程度の施設がなかったから稼働していなかったということも考えられるので、その辺も含めて、もっと議論が必要なのかなと思えます。

(赤羽委員長)

そうですね。

(佐藤委員)

今の所に少し付け加えさせていただくと、私はコンサートに行かせていただきますが、上越文化会館の 1500 席が満員になることは余り沢山無いのが現状です。そうなると、そんな大きなものは必要なのかと、私自身、思っていました。でも、700 から 1000 席を望まれている方が多いことにびっくりしています。

(阿部副課長)

若干、追加説明をさせていただきます。今、説明しました通り、700 から 1000 席というのが全体の 7 割ということなんですが、資料を見ていただくと分かるんですが、700 から

1000席を分けると、どちらかというとも700から800席位の方たちの方が多い状態です。分類すれば、ニーズとして一番高いのが、700から800席位かなと思われます。

(赤羽委員長)

はい。従いまして、規模を大きくしていくと文化会館との競合関係が生まれますね。文化会館の稼働率が下がっていくこととなります。要望としては、700から800席か、リージョンプラザが500席位で、かなり良く使われています。しかも、広域的に使われているところでもあります。規模について、他にご意見いかがでしょうか。

(清水委員)

規模として、床面積についてもよろしいでしょうか。

(赤羽委員長)

はいどうぞ。

(清水委員)

パワーポイントの資料の所で、座席数の床面積の関係というところがありますが、稼働式の500席のイメージとして、緑の客席のところ約440㎡となっていますが、これで今の座席数が700から800席という希望をとり入れた場合、可動式の500席のイメージでは、440㎡は埋まりますけど、残りの200席等を福井のホールみたいな感じで、普通の椅子を置き、もう200席位を足してもいいのかなと思うのですが。足し算していくと、単純に床面積だけで、旧厚生南会館は舞台抜きで700から770㎡と説明がありましたので、やはり750から800㎡位と余裕をもった床面積があった方がいいんじゃないかと、個人的に思いましたので意見させていただきたいと思ひます。

(赤羽委員長)

はい。どうもありがとうございました。規模について、今日、決めなきゃいけないということではありません。どの位を目安にしたらいいのかということですが。希望が一番多いところは700から800席ということですね。その辺をマックスとして考えて、当初の計

画で、500 席から 700、800 席で、今後、考えていくようなことでよろしいでしょうか。

(各委員)

はい。

(赤羽委員長)

続きまして、建設場所につきまして説明お願いいたします。

・議事-6 (新保主任)

建設場所につきまして、説明させていただきます。資料 5 になります。パワーポイント資料は最後のページになります。スクリーンの方で説明させていただきます。

前回、第 1 回検討委員会資料の中で、全国の類似施設の調査結果から想定した駐車台数ということで想定される客席数 500 席に対して駐車台数は約 200 台と説明させていただきました。この中で、各候補地の駐車台数というのは、前回の資料でも示させていただき通りですが、200 台に達していないことが分かりました。そこで、候補地周辺の駐車場状況につきまして調査をさせていただきました。グラフで説明させていただきます。各候補地の駐車台数につきましては、緑色の部分になります。200 台にどれも達していません。そこで、黄色の部分が徒歩 3 分圏内にある周辺の駐車場を調査した結果になります。高田公園、プール跡地、ソフトボール球場、教育センターのあたりが、高田公園周辺ということもありまして、かなりの駐車台数を確保できるということが分かります。次に、徒歩 5 分圏内ではありますが、こちらの方が加わってきますと、高田駅前、高田公民館の辺りも 200 台を確保することが可能となってきます。今回の駐車場の調査は、市で管理する有料駐車場や高田公園内の駐車場、商店街さんが運営している駐車場につきまして調査させていただいております。お配りしてある資料の中にも、駐車場状況によっても利用状況、候補地までの環境条件もありますので、例えば、スポーツ施設と競合してしまうとか、高田駅前を通るとかのコメントもさせていただいております。図面も資料の中に入れてさせていただいておりますので、どれ位が 3 分圏内か、5 分圏内かを説明させていただいております。こちらの資料を情報として参考にしていただければと思います。以上で説明を終わります。

(赤羽委員長)

ありがとうございました。周辺の駐車場スペースについて説明があったのですが、グラフの通りであります。ただ、立地場所につきましては、駐車場スペースだけで立地場所が決まるわけではありませんので、利用しやすい市民が集まりやすいとか、交通の利便性とか、或いは市街地の活性化につながるとかも思われます。参考までにこういった駐車スペースであるということです。建設場所につきましては、様々な見方もあるかと思いますが、第1回の会議で委員の皆様方から候補地の視察を行っていただきました。その時の感想がありましたらいただければと思います。今日、ここで場所まで決めるわけではありません。今後のためにある程度、方向性が絞ればと思っております。

(田中昭平委員)

候補地と関連する駐車場の問題もありますが、そこに決めた場合に、どんな問題があって、どのように対応と対策をしなければならないのか、ここらあたりのことです。また、その対策を講ずる予算が必要になってくる場合も考えられます。そんな点がある程度、考慮しないと、やはり問題がでてきそうにも思います。その点、まだその点までできていませんが、大切だと思います。旧厚生南会館の跡地のような場合は、市の土地になっているんだから、そこに作れば何も問題が無いようですが、実際にそうなった場合には問題がでてくるということもあるだろうし、要するに、対応と対策ですね。それに伴って予算が伴うので、それによって、今まで利用したものが、それで了解しましたとなる可能性があるのか難しいので、その辺は市民感情も入っておりますから、この選定と駐車場との関連においては十分慎重に事を運んでいただきたいという、私の意見です。

(赤羽委員長)

駐車場の場所も大きな問題ですが、ホールと公民館機能という2つの機能の軸を果たせる場所になるかと思えます。従って、立地場所というのはコンセプトから結論を導き出せるかと思えます。初めに場所ありきではなく、コンセプトを参考にして考えていただければと思います。第1回目で視察をしていただいたのですが、場所についてご意見等あればお願いします。

(清水委員)

直江津地区に住んでいるので、高田のことは分からないのですが、3番目の高田公民館

は車で来館しにくい感じがします。いろんな地区から来て分かりやすいというのは、高田公園の近くが良いのかなと思います。

(赤羽委員長)

ありがとうございました。清水委員さんのご意見も確かにその通りだと思います。こういったことを考えて行くには、もう少し揉んでからの方がよろしいのではと私は思います。

(阿部副課長)

当然、市としても現在の候補地のうち、使っていない更地のような土地というのがあります。また、候補地のうち、利用されている方がいる場所もあります。実際、建物を建てることになった場合、利用されている方々とは協議が必要であり、重要なことであると考えています。協議がどの段階で必要なのかということなのですが、できれば、検討委員会の中で若干、候補地を絞り込んでから、可能性が出た段階で関係団体の方々といろんな相談をさせていただきたいと考えております。その方々の意見を聞いて、検討委員会にフィードバックをして、最終的な候補地の絞り込みに入りたいということで考えています。当然、協議や相談をした時にいろんなコストがかかるという話も考えられます。ホールに關しましては、現在、利用している方々の関係団体、例えば、駐車場を立体駐車場にしたいという時にはコストがかかる、そういったことも含めて、若干、候補地を絞り込んだ時にいろんな相談をさせていただきたいと思っていますので、現在、利用している方々の意見というものは非常に重要になるということで考えています。

(赤羽委員長)

他に場所につきましてご意見はありますか。

(秋山副委員長)

場所につきまして、先月、社会教育委員兼公民館運営審議会委員の皆様からご意見をいただきました。10名ほど集まったのですが、ほとんどが13区の方々であったので、この問題は高田地区公民館としてとらえる場合は、やはり公民館周辺の人達の意見を出せたらというのがありました。そうなってくると、現在の高田公民館のところにホールができて幼稚園の保育ということが可能であれば、利用者の利便を考えたらとても良いというのが

分かります。広域の方が来るということになると分かりやすいということで、ソフトボール球場が分かりやすく、併せて、ソフトボール球場はスポーツ関係の利用者の方がおり配慮するとなると、教育センターの場所が近いところで似たような立地条件ということで一つの候補となりました。捨てがたいのが、旧南厚生会館の芝生広場の跡地、可能性としてはあるかなということでした。最後に、高田駅前、駐車場だけみると可能性が低いのですが、違ったいろんな付加価値の面で駐車場の問題がクリアできれば、将来的な高田地区の象徴的な施設として可能性があると思います。田中昭平委員さんからも話があった通り、いろんな付随することもあり、もう少し細かく分析したものはないのかという意見がありましたが、それも絞り込まれてからのときにして、可能性の低いものを幾つか取りまとめて、2、3絞った中でというよりも、もう少し幅を広げてこの場で検討できたらと思いました。以上です。

(赤羽委員長)

他にご意見ありますでしょうか。場所につきましては第3回の会議に議論していきたいと思えます。今日は時間の関係もありました、この程度にしたいと思えます。付随付帯施設として飲食、保育機能につきましてももう時間がありませんので次回にしたいと思えます。最後にその他ですが事務局お願いします。

・議事-7 (奥田課長)

事務局の方から2点ほどお願いしたいと思えます。1点目でございますが、今日も活発なご議論をいただきありがとうございます。第1回目の検討委員会で検討委員会のスケジュールをお出ししておりまして、その中で3月末までの構想(案)のまとめというところでございますが、私どもとしましては、市民の方にとってどのような施設が一番使いやすいのか十分にご議論いただきたいと思えます。また、皆さんから、もっと時間をかけてご議論をいただくことも必要かと思えますので、そのようなことから3月末の結論を急がずに、4月をまたいで24年度に入ってもご議論をしていただく方が、より良い施設となるのではないかと考えておりますので、3月末にこだわらずに、ご議論いただきたいと考えております。24年度のいつまでなのか、全体スケジュールは決めかねているところでございますが、その点については、また次回にご相談させていただきたいと思っておりますので、この場では、3月いっぱいまでということではなく、4月をまたいだご議論をしていただき

たいということでございます。

2点目は、先ほどの議論の中でも類似施設の内容を説明申し上げましたが、リージョンプラザや上越文化会館のホールについて、また、高田地区公民館についても資料の写真をご覧いただき、また現地に足を運んでいただき見ていただく方が、今後の議論の参考になるかと思しますので、類似施設の視察もご提案させていただきたいと思います。

(赤羽委員長)

スケジュールの見直しにつきましてご意見がありましたらお願いします。

(各委員)

なし

(赤羽委員長)

3月に結論を急がないで、4月をまたいで、24年度に入って、まあ6月位を目途に考えていったらどうかと思います。結論を急がないということで、よろしいでしょうか。

(各委員)

はい

(赤羽委員長)

2点目の類似施設の現地視察について、何か意見はありますでしょうか。

(各委員)

なし

(赤羽委員長)

それでは、今、提案のあった通り、現地の視察をして参考にすることをお願いいたします。その他として、委員の皆様から何か意見ありましたらお願いします。

(各委員)

なし

(赤羽委員長)

それでは、以上をもちまして本日の議事はすべて終了いたします。ありがとうございました。

(4) 次回開催日程について (奥田課長)

次回の開催日程につきましては、市内類似施設の視察を2月6日から2月10日の週で調整をお願いいたします。第3回の開催につきましては、類似施設の視察をした後の2月13日の週で調整させていただきたいと考えております。日程調整表の提出を1月30日(月)までにファクスでお知らせくださいますようお願いいたします。この回答を確認いたしまして、後日、改めて次回のご案内をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。なお、本日の会議の記録の確定版をホームページにて公開させていただきます。また次回のご案内と一緒に送りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。大変長時間にわたりご議論いただきましてありがとうございました。以上もちまして、第2回上越市(仮称)厚生産業会館整備検討委員会を終了いたします。大変ありがとうございました。

(5) 閉会

8 問合せ先

都市整備部都市整備課公園管理係

TEL : 025-526-5111 (内線 1379)

E-mail : toshiseibi@city.joetsu.lg.jp

9 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。